

様式第2号（第7条関係）

会議録

会議の名称	第5回川島町災害情報伝達検討委員会	
開催日時	令和元年11月26日（火）午後2時	
開催場所	川島町役場 第2委員会室	
議題	(1) 会議の公開、会議録の記録方法及び会議録署名委員の指名について (2) 災害情報伝達について (3) その他	
公開・非公開の別	公開・非公開・一部非公開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	委員	飯塚 智規、木村 みちえ、関根 和則、（代理 松井 慎一）、水村 一重、小川 敏晴、高野 裕幸、永田 久男、神山 文夫、馬場 三郎、宇津木 康明、鈴木 克久、内野 修一、石川 和貴、石川 勉
	事務局職員	総務課：高城主幹、菊地主査
配布資料	次第 資料1 災害情報伝達検討委員会報告書 資料2 戸別受信機の標準的なモデルのイメージ 資料3 デジタル防災行政無線（同報系）の仕様書における戸別受信機に関する主な記述の一例	
審議会等の内容・概要		
1 開会	進行高城主幹	
2 あいさつ	飯塚委員長 前回の委員会として、ご理解・御協力を頂きまして、委員会として、災害情報伝達方法の方針について決がされたとの事で、感謝を申し上げるとともに、今回については、それらを受けて、どのようなものになるのか、委員会の中で検討頂きたいと思っております。	
3 議事	議事進行：川島町災害情報伝達検討委員会 飯塚委員長	
(1) 会議の公開、会議録の記録方法及び会議録署名委員の指名について	<p>「川島町防災会議条例」に基づいて、「川島町審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づいて、今回の会議を公開することと、傍聴について説明し、審議を行う。さらに、会議録の公開方法や署名委員についても審議を行う。また、署名委員として、神山委員、馬場委員とする。</p>	
(2) 災害情報伝達について	<p>■屋外スピーカーについて</p>	

前回にて、方針が決まったということで、感謝申し上げますが、災害情報伝達の方法として、屋外スピーカーなのか、戸別受信機なのか議論いただいた中で、

屋外スピーカーについても要望が多くあった、それらをふまえて、全て撤去というわけではなく、全部までは無いまでも、委員会として、一部残せないかとの意見としたい。

主体は戸別受信機、補助として屋外スピーカーを残せるんであれば、一部残し活用するということで、災害情報伝達手段の多重化を図るということで、お願いいいたします。

- ・どのような場所に屋外スピーカーが必要なのか検討させて頂きたい。

委 員 カインズホームの近くに屋外スピーカーがある、子どもの登下校などのチャイムは良く聞こえ、重要だと思う。できれば、屋外スピーカーをなるべく残す形で対応し、戸別受信機については、持ち運び等もできるので導入をお願いしたい。

委 員 町外から来られる人も聞こえる様にした方がいいと思う。例えば、平成の森や、遠山記念館については設置した方がよいと思う。

委 員 行方不明者などが出た場合は、屋外スピーカーが必要だと思う。全部ではなくても、広範囲に聞こえるスピーカーなど、新しくしてもらって設置する方がよい。風水害の時などは、戸別受信機が必要だと思う。この前の台風19号の時も、電話で連絡を行ったが、電話に出なく、家に居るのになかなか出てこない人もいる。それを考えると、屋外スピーカーは聞こえないと思う。できれば戸別受信機を整備して欲しい。

委 員 学校や、高齢者福祉施設などの近くには屋外スピーカーが必要なってくると思います。それでは、屋外スピーカーについても、なるべく残していくというところで提案したいと思います。

■報告書について

(事務局から説明) 資料1 災害情報伝達検討委員会報告書

委 員 情報の受け手について、検討し、災害情報伝達検討委員会報告書に載せたいと考えている。その中で、議論すべき内容がいくつかあります。まず、III. 3 災害情報伝達の方法について、事務局より説明お願いします。

(事務局から説明) 資料2 戸別受信機の標準的なモデルのイメージ

(事務局から説明) 資料3 デジタル防災行政無線(同報系)の仕様書における戸別受信機に関する主な記述の一例

- ・機能についてどのようなものがいいのか、検討頂きたい。

委 員 資料2の13番目(聴覚障がい者用ランプ)については必要だと思います。聴覚障がいの方にそういったランプは必要だと思います。

委 員 アパートについては、施設に一台付け、アパート全体が聞こえる様にしたらどうか、また、スピーカーについても、電波で飛ばせるものもあると思う。一台で各部屋を対応出来たり、近くに屋外スピーカーを設置するなど、考え

- られると思う。
- 委員 ディスプレイも欲しいと思う、聴覚障がいの方はもちろん、音だと聞き逃しする危険がある。また、外国人の人に対応などについても検討した方がよいと考える。
- 委員 普段、使わない時に音量を下げたままにしている人が居た場合、自動起動装置で音声を強制的に上げるや、メッセージなどで対応することも必要だと考える。
- 委員 音声受信、緊急一括呼び出し、停電時対応、乾電池動作時間、外部アンテナ接続は必須の対応と考えます。それらに加えて、災害情報弱者に対する対応が必要になる。機種を3機種ぐらいに絞って考えた方がいい。
- 委員 仕事などで、ラジオ等を使用する方にとっては、ラジオ機能も必要だと感じます。
- 委員 戸別受信機で配布するのであれば、放送した内容を確認できたか、「受信確認の機能」についても検討してみた方がいい。
- 委員 外国人や障害者の方についてどのような機能がいいのか、整理する必要がある。
- 委員 それでは、それら意見を含め、報告書に載せるよう提案してまいります。次に、III. 4 災害情報伝達の運用方法、III. 5 啓発活動について検討したいと思います。
- 委員 今までの議論で出てきましたとおり、電池切れなどを起こさない様に、防災訓練でやっている、シェイクアウトと同じ様に、交換してもらう。
また、そもそも防災について情報伝達があった場合にどのように行動を起こすべきなのか、啓発する方法について意見等お願いします。
- 委員 台風19号の際ですが、自主防災も組織して、ある程度決めていたが、いざ災害になると機能しない、昔ながらの区長さんから各班長さん、その下の家庭への連絡を行っていた。
町からの情報については、現在では、携帯電話で各区長さんへ連絡が行える。それを聞いて、区長は、避難所へ避難してほしいとの連絡を行った。
戸別受信機であれば、それが各家庭に直接いくのでいいと思う。また、機能についてもなるべくいい物を入れてほしい。
- 委員 災害時にあるはずの組織が機能しない。また、役員が電話しても電話に出ない事などもふまえると、役員の避難が遅れてしまう。
そうならない様に、電話を掛けなくても、戸別受信機で内容を聞けば、みんな所定の場所に集まっているなど、決める必要がある。
- 委員 台風19号が来て、避難行動を起こさせる為に河川水位の写真を載せるのも、有効だと思う。いろいろな所で話しを聞くと、屋外スピーカーで聞こえたとしても、避難までの行動を起こせるかどうか疑問に思う。
- 委員 雨量についても、認識が薄いと思う。200ミリがどの程度か、わからない

- 人や、ハザードマップの認識ももっと啓発すべきだと感じた。
- 委員 自助について、警戒レベル3はどのなものなのか、自分でどのような行動が必要なのかよく認識する必要がある。
- 委員 町民ももちろんだが、学校等についてもそういった教育が必要だと思う。
- 委員 避難勧告、避難指示について違いは理解していないと思う。また、「危険水位を超えた」がどの程度なのか、分かりづらい。土手の天端からの方が想像がしやすいと思う。
- エリアメールについても、川島町からも出ていたが、川越市や東松山市からも出ていた、他の市町村の情報で危険かどうか感じる部分もあった。もっと細かく出す必要があったのかなと思います。
- 委員 警戒レベル3、4などだと、判断する側（受けて側）としては、わかりにくく感じた。準備をするとか、避難するとか、そういったものについて、啓発は必要だと感じます。また、不審者や、交通安全に関する戸別受信機に流すようにしてほしい、防災情報だけだと、期間等が限定されるので、日頃から、そういった情報を流して欲しい。また、できれば、緊急時の放送とそうでない場合で区別を行える様にして欲しい。
- 委員 テレビのニュースなどは、放送の都合上、大まかな物、例えば、今の雨量はこのぐらい等になってしまふ。細かい情報については、データ放送で補完するようになっている。また、データ放送の内容については、自治体で入力いただいた情報をそのまま出している。その為、自治体によっては記載内容が様々です。
- 委員 委員会で出た意見等をまとめ、啓発活動において、町でどのような啓発活動がよいのか検討する必要がある。そうしないと、町で整備した災害情報伝達手段を町民が活用し、行動に移せなければ意味がない。
- 委員 データ放送は、どのような形で、地域の指定などを行っているのか
- 委員 データ放送は、テレビに郵便番号を設定し、その地域で受信している。
- 委員 この前の台風19号では、他の市町村もデータ放送で、確認できた。それにより、大変助かった。
- 委員 近隣の災害情報の収集し、町民へ公表するのもいいのではないか。また、地域のみなさんが集まる会議等で話しをするのも啓発活動になる。
- 委員 防災の関連について、消防・警察ではどのように活動しているのか。
- 委員 消防は火災について、各地区を警戒するようにしている。それ以外には水防、防災訓練等では実施している。
- 委員 水防訓練にてそういった啓発活動を行うのも考えられる。
- 委員 自主防災会で防災学習として、鴻巣市にある防災学習センターに行った。風速や雨量など、体験型の学習を行う事により、理解しやすかった。そのようなものも有効だと感じる。
- 委員 座学と訓練によるものが大変重要となってくる。どちらか片方だけだと、訓

練が何のためにやっているのかわからないし、座学も意味は分かるが、実際の行動によりわかる部分や、実際の行動に移れないなどもある。

委員　　この委員会では、こういった意見もふまえ、報告書の中で提案したいと思います。

委員　　他に議論すべき項目について事務局からありますか。

委員　　報告書案のIVの項目は必要なのか、報告書では、その他の意見としてまとめたほうがいいのではないか。

事務局　　そのとおりで、変更します。

委員　　戸別受信機については、主体となる。その中で、戸別受信機はどの程度配布する必要があるか。

委員　　戸別受信機の対応年数はどのぐらいか。

事務局　　戸別受信機については、はつきり何年とは答えられないが、ふつうのラジオ等を考えれば、5年ぐらいだと思います。

委員　　対応年数が5年だとしても、全戸別受信機を変えるというのではなく、地区ごとに順に替えるという方がいいのではないか

委員　　町民についてはあるが、町内の法人、会社等にはどのように配布する必要があるか整理する必要がある。

委員　　事業所については、一つの考え方として、事業所が用意すべきなのか、町が用意すべきか考える必要がある。あくまで個人的な意見だが、事業所でそういった用意をすべきだと思う。しかし、老人福祉や病院などについては町が用意する必要があると思う。

委員　　屋外スピーカーについては、アパート周辺を残した方がいいと思う。

委員　　戸別受信機が中心とし、屋外スピーカーや、かわべえメールにより多重化を図る。それをふまえたうえで、それらによる情報伝達を受けた際にどのような防災活動を行うべきなのかを報告書に載せる。具体例は載せないが、会議で出た様々な意見を載せる。また、戸別受信機についてはどの程度配布すべきなのか、アパートは屋外スピーカーにするのか、検討する必要はあるが、全世帯、またはそれに準ずる形がいい。事業所については、事業所の責任で実施する。しかし、老人ホームや学校等、については、配布を検討した方がいいとの話しがあがったと意見をまとめていければいいと思う。

委員　　障がいを持った方にも配慮した戸別受信機も用意してほしい。

委員　　そういう意見も含め、報告書で提案してまいりたいと思います。

委員　　対応年数5年との話しがありますが、戸別受信機の修理や対応などを文書として残してもらいたいと思います。

委員　　それでは、議論はしつくされたと思いますので、次の議題に移りたいと思います。

(3) その他

報告書については、(案)を12月中に一度郵送しまして、それを持って、次回

の会議にて検討したいと思います。

また、次回の会議日程については、2月下旬を予定しておりましたが、1月下旬にて行いたいと思います。予定が先の為、また改めて通知をさせて頂きたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

今日、ご意見を頂きましたが、それ以外にも後程意見等があれば、連絡いただければ、報告書に載せてお送りしたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

6 閉会 関根副委員長

以 上